

窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。今、学校に求められるもの
「学び続けること」

所長 菅田健夫

人は外面的に見えるがよく理解できないことに対して、二通りの反応をするといわれる。対象が自分を超えるものであると感じれば恐れや畏敬の念を持ち、そうでないと感じれば理解するに値しないと判断する。一昔前までの学校は尊敬すべきものとして前者に位置付けられていたと思う。しかし、情報網が発達し、学校に関しても多くの断片的でリアルタイムな情報が飛び交うようになり、学校で起こることは我が子にとっての関心事として社会の批判の目にさらされるようになった。結果として、教師の時間と労力が様々なことに割かれる今は、教師にとって労をいとわずひたすら子どもに向き合うことができにくい環境になった。

子どもと向き合う時間が減少した今のわれわれ教師にとって必要なものは何だろうか？

教師を続けていけば、「子どもの心に火がつくのは、先生が自分のことを本気で考えてくれていると感じたり、指導内容がすばらしいと感動したりしたときだ」と思った経験があると思う。子どもから信頼される指導力のある教師にイえることは、教師が学ぶ姿勢の鏡になっていることだと思う。子どもは正直だから「学ぶ者に学ぶ」のである。様々な業務に追われがちで、自らを高める時間を見つけることが難しくなっているからこそ、プロとして学ぶ心を持ち続け、己に研修を課すことがこれまで以上に必要なのではないか。

自分の愛する教科に限らず「学び続けること」が教師としての本質にかかわるとすれば、目標

管理制度にのっとった各個人の課題としての研修とともに、学校は組織的な校内研修を最重要課題の一つと位置付ける必要があると思う。教員の集団こそ「学び合い」が必要なものであり、限られた時間の中でいかに形式より内容を充実させるか、「終わってみればやってよかった」と授業者や参加者が何かを得たと実感できるか、校内研修を含めて組織的に「学び続ける」ためのしかけについて知恵と工夫を寄せ合う場も必要であると感じる。

さて、厳しい財政の下、教育センターでは、今年度専門研修の講座数は大幅減となったが、これまでの受講者の評価等も踏まえ、研修を精選し講座内容をさらに充実する機会と前向きにとらえ、学び続けるためのメニューをできるだけ準備するよう努力したつもりである。特に、中堅の先生方には、多忙な日常生活を少しだけ離れて、積極的に専門研修を受講されるよう、お願いをしたい。来所の折には、カリキュラムセンター相談室にある各種指導案等の資料も御活用いただければと思う。

おわりに、昨年は、所報ふくしま「窓」リーフレット版を県内すべての教職員へ配付したが、学校におけるインターネットの普及状況も踏まえ、今年度より、リーフレット版もWeb配信とした。Web版開設以来目指している質の高い有益な「知」と「情報」を先生方にお届けできるよう工夫していきたいので、情報検索で教育センターのHPを訪れた際には「窓」も併せて開いていただきたいと思います。

児童生徒の考える力を育てる

「考えなさい」だけでは考えられぬ

～問題を提示した後に～

教師：この問題を考えなさい。
 児童生徒：（どうしたらいいんだろう・・・）
 教師：できた人は手を挙げなさい。
 児童生徒：（分からないなあ・・・）
 教師：しっかり考えなさい。
 児童生徒：・・・・・・

左は、授業での一場面です。

教師の「しっかり考えなさい」という言葉だけでは、児童生徒は何をどのように考えたらよいか分からなくて困ってしまいます。このような授業の繰り返しでは、児童生徒の「考える力」はなかなか身に付きません。

今年度は3回にわたって「授業改善のための視点」について連載していきます。第一回目は「児童生徒の考える力を育てる」という視点にスポットをあてていきます。

では、「考える力を育てる」にはどのようにしたらよいのでしょうか。

1 「考え方を育てる」～児童生徒の具体的な姿でとらえる

まず大切なことは、授業で育てたい考え方を具体化することです。

児童生徒に身に付けさせたい発言や活動などを教師が明らかにし、それを目標として位置付けることです。そして実際の授業の流れの中でその考え方が具体的に表れたとき、その発言や活動を意図的に取り上げて、認め、広げていきます。

つまり、児童生徒の考える力を育てるためのスタートは、育てたい考え方を漠然としたイメージから具体的な児童生徒の姿でとらえ、目標及び手立てを明確にすることにあるとも言えます。

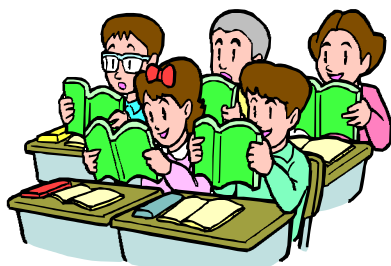


2 教材との出会わせ方を工夫する

意外性のある事実や事象、疑問をいadak不思議な場面などに出会うことが、「どうしてかな？」という知的好奇心につながります。

教材や活動をどのように構成するかが教師の役割として重要です。

同じ教材を扱うにしても、考えなくなる少しの工夫をすることで、授業は変わってきます。



例) 教材文との出会わせ方の工夫 (小学校 中学年 国語科)

説明文の段落を意図的に取り除き、**段落なしの文章**を児童に提示

「うわあ、文字だらけ。」「読みにくそう。」などとつぶやいている。もう既に、「いつもの文章と違う。」何かを児童は感じている。「どこがふつうの文章と違う？」と教師が問いかけただけで、児童の思考が促されていった。この学習では、段落構成を調べることを通して文章を深く読み取ることがねらいであった。

教材との出会わせ方を工夫することで、その後の児童の学習に対する意欲は大きく変わっていくものである。

3 「考え方」を学ばせる

考える営みは、考え方を習得することによって、一層充実します。次のような考える際の様々な方法や技能を習得させることによって、思考が深まっていきます。

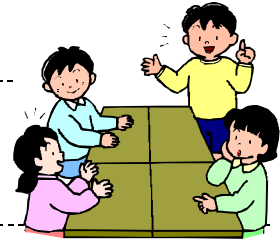
○ 比較したり、関連付けたりして考える。

例) 小学校5学年 社会科 「米作りのさかんな地域」

□ 秋田県でなぜ米作りが盛んか。

<期待する児童の姿>

- 秋田市と宮古市(岩手県)の平均気温、日照時間を比較して考える。
- 海流と気温との関連を考える。
- 土地利用図の田と畑の分布を比較して考える。
- 田や畑の分布と川との関連を考える。



<習得させる考え方>

[比較して考える]: ある視点に着目して比較し、共通点や違いを見付け、そこから特色を考える。

[相互の関連を考える]: 事象と事象の間のつながりを見付け、相互のかかわりを考える。

○ 帰納的あるいは演えきの考える。

例) 小学校5学年 算数 「図形の角」

□ 三角形と四角形の内角の和を調べよう。

<期待する児童の姿>

- いろいろな三角形の内角の和を調べる。(帰納)
- 調べた結果から三角形の内角の和が 180° であると考え。(帰納)
- 四角形は二つの三角形に分けられることから内角の和が 360° であると考え。(演えき)



<習得させる考え方>

[帰納的な考え]: 幾つかのデータから成り立つルールや性質を見いだす。

[演えきの考え]: ルールや性質をほかの場面に適用する。

○ 仮説を立てたり条件を設定したりして考える。

例) 小学校5学年 理科 「種子の発芽と成長」

□ インゲンマメが成長していくためには、水のほかに何が必要か。

<期待する児童の姿>

- 調べたいことを整理し、条件を設定する。
 - ア 日光に当て、肥料を与える。
 - イ 日光に当てないで、肥料を与える。
 - ウ 日光に当てないで、肥料も与えない。
- ア～ウの結果を基に仮説を検証する。



<習得させる考え方>

[条件を決めて考える]: 調べる条件と、そろえる条件を決めて調べ、実験結果を比べて考える。

4 考えることと表現することの一体化を図る



児童生徒の思考は、表現することで深まっていきます。よりよい考えやより深い考えを見いだすために「話し合い」を設定するのは、思考と表現を一体化することにつながります。「話し合い」を促進し、思考をより深めるためには、右の例のような教師のはたらきかけが重要です。

このように児童生徒の思考を促進し表現させながら、意見を束ね、分類・整理していくことが大切です。

例) 「話し合い」における教師のはたらきかけ

- 「Aさんの言っていることはこういうことかな？」と復唱して整理する。
- Aさんとは別の児童生徒に、「Aさんの言っていることを自分の言葉で言ってみてくれる？」と復唱を促す。
- 「つまり、BさんはCさんに賛成なのですね。その話を聞かせて。」と意見の内容を掘り下げて説明を促す。
- 「Dさんはこのように言っていますが、そのことについてどう思う？」と友達と自分の考えを比較検討するように促す。
- 「Eさんの考えに付け足す人はいない？」と補足説明を促す。

二人の生徒が語りかけるもの

～ 「道徳の時間」 への期待 ～ 教科外教育チーム

はじめに ～ある日、車内で出会った高校生の事例から～

【事例1】

【事例2】

朝の混雑するバスの中、A子は二人がけのイスの中央に一人で座り、化粧を始めた。次のバス停でお年寄りが乗り、たまたまA子のわきに立った。A子はわきにずれる様子もなく、お年寄りが立ったままでバスは進んだ。A子は化粧を終えたかと思うと、今度は携帯電話をいじり始めた。

人気も少ない夜の列車の中、部活動の練習を終えての帰りと思われるB男たちが、車内を行ったり来たりしていた。ふざけ合っているのかと思いきや、戻ってくるときには空き缶や紙くずを両手に持っていた。彼らは車中のゴミを集めていたのである。



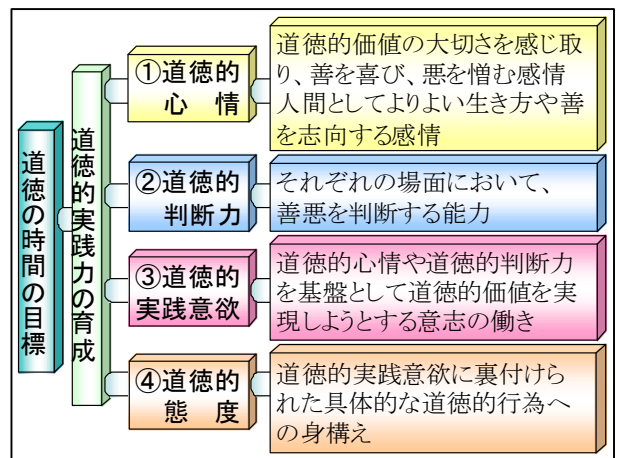
A子、B男たちの行動について、みなさんはどのように考えますか。

いずれも高校生についての事例ですが、目の前の児童生徒の数年後の姿をイメージしながら、「道徳の時間」について、以下の二つの視点から考えてみます。

1 「道徳の時間の目標」から見るとどうでしょうか？

A子は、すぐわきにお年寄りが立っているにもかかわらず、二人がけのイスを占領し、また公共の場で化粧をするなど、「道徳的心情」、「道徳的判断力」の両面において課題が多いと思われます。

一方B男たちは（監督からそうすべきであることを日ごろ言われているのかも知れませんが）実社会において「自ら進んでゴミを拾う」という行動に移すことができている。つまり「道徳的実践力」が育ってきていると考えることができます。

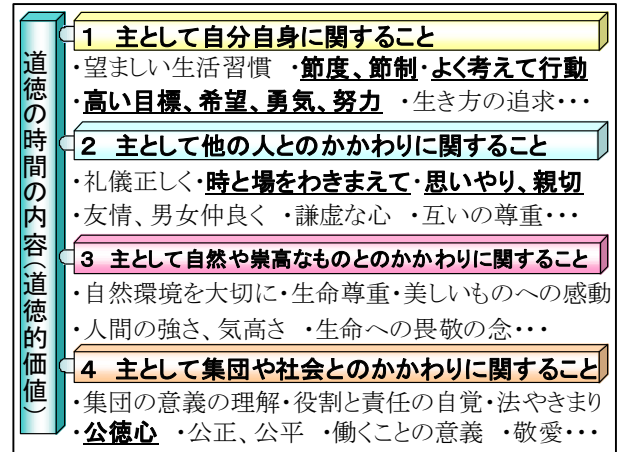


2 「道徳の時間の内容」から見るとどうでしょうか？

A子、B男ともに公共交通機関での行動であり、内容項目4の「公德心」に関して対照的です。

A子の行動については、内容項目2の「時と場をわきまえて」、「思いやり、親切」や内容項目1の「よく考えて行動」、「節度」などが課題となると考えます。

一方、B男たちの行動には、内容項目1～4のいずれもが含まれていますが、その行動の支えとなっているのは、内容項目1の部活動における「高い目標」、「希望」、「努力」であろうと思われます。

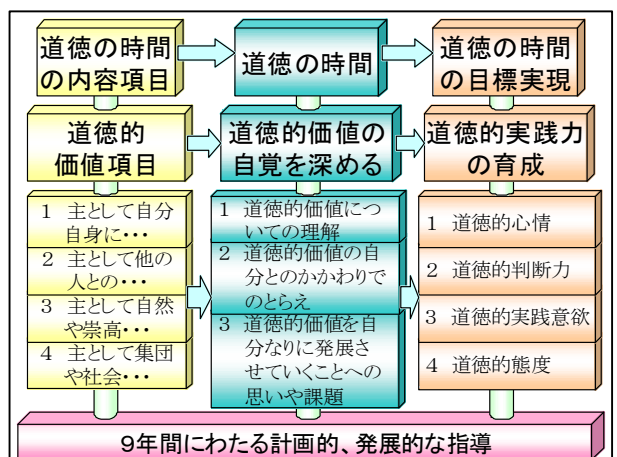


おわりに ～「道徳の時間」への期待～

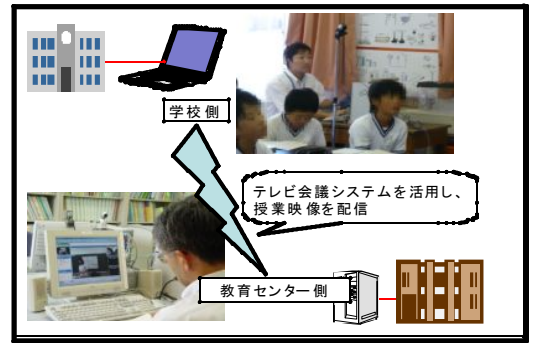
A子、B男たちの行動を「道徳の時間」の目標や内容から考えてみました。A子の行動は、我々教師にとってはよく耳にする残念な事例であり、逆にB男たちの行動は、勇気付けられる事例です。

小・中学校においては、右図に示した「道徳の時間」があります。ただしこれは特効薬ではありません。意図的、計画的に道徳的価値について考えさせるなど、地道な積み重ねが必要です。そのことがやがて相手の気持ちを考え、状況を判断し、自立的に行動できる人間の育成につながっていくのでしょうか。

※図は「小学校学習指導要領解説 道徳編」に基づいて筆者作成



福島県教育センターでは、授業力の向上を目指して、指導助言等をリアルタイムに行う取り組みをすすめています。教育センターをインターネット回線で接続することによって、双方向の映像及び音声の通信による授業研究が可能になります。校内研修をより活性化させたり、よりよい授業を実践させるための一つの手段として、テレビ会議システムを活用してみませんか。



【テレビ会議システムを活用した校内研修】

1 テレビ会議システムってなに？

「テレビ会議システム」とは、回線を利用して、遠隔地同士であっても、face to faceでの会議を実現可能にしたシステムです。会議向けに設計されている点で、一対一の個人向けのテレビ電話システムとは異なります。「ビデオ会議システム」「Web会議システム」とも呼ばれています。



2 このようなことができます！

(1) 事前研究では

テレビ会議システムを活用することで、遠隔地であっても事前研究会等に指導主事に参加を求めたり学習指導案の作成に当たっては資料を画面に提示しながら相談したりすることができます。

(2) 授業・事後研究会では

テレビ会議システムを活用することで、教育センターにいる指導主事に授業や事後研究会に参加を求め、授業についての指導助言を受けることができます。その際、指導主事が学校にうかがうより、授業や事後研究会の日時が、学校の要望に合わせやすくなります。



【遠隔での参観】

教育センターの指導主事と学校の撮影担当者が、マイクやヘッドホンで撮影方向等を確認し合います。



【カメラ撮影】



【事後研究会】

(3) 学校間連携

教育センターとの連携だけでなく、授業研究を核とした次のような学校間連携へのサポートもできます。

- ～例～
- ① 隣接校における連携
 - ② 同校種間（同教科・同学年）における連携
 - ③ 小・中・高等学校間における連携

※ テレビ会議システムについての詳細は所報ふくしま「窓」Web版を御覧ください。
(<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>)

お知らせ

カリキュラムセンター通信



◇ カリキュラムセンターを御活用ください

県内の先生方や学校が日常の教育活動でお困りのことについて、相談を受けたり支援を行ったりする教育センターの窓口がカリキュラムセンターです。

カリキュラムセンターでは、次のような業務を行っています。

- ① 学校教育に関する相談に応じます
- ② 教育研究を支援します
- ③ 各種資料を提供します
- ④ 学校と教育関係機関とをつなぎます



詳しい内容につきましてはWeb版の「窓」に掲載しました。御覧ください。

先生方のたくさんの御利用をお待ちしております。お気軽に御活用ください。

◇ 速報！ 「福島県教育研究発表会」としてリニューアルします

今年度から、会の名称を「福島県教育研究発表会」として、内容をさらにパワーアップしていきます。今回は、教育センターを会場として、12月2日（火）に開催いたします。県内小・中学校、高等学校の優れた教育実践と教育センター所員の研究の発表をじっくり御覧いただけるように、午前、午後ともにワークショップ形式での発表を予定しております。御期待ください。

—実践に役立つ教育資料の御紹介—

思考力を高める学習指導法の研究

千葉県総合教育センター 研究報告 第366号(2008年3月)

「筋道を立てて考える力」＝「論理的思考力」と位置付け、「論理的思考力を高める指導法」を国語、社会、算数・数学、理科、英語のそれぞれの教科で具体的に提言しています。その中で、課題解決のための一連の思考過程を、認知する過程（Cognitive）、具体化する過程（Specific）、一般化する過程（General）の三つからなると考え、これらの過程における思考の働きが活性化することにより、一連の思考の流れが活性化すると述べています。そして、この一連の思考過程の繰り返しが、児童生徒の「論理的思考力」を高めると考えモデル化しています。

発展的な学習ナビで、簡単授業づくり！

算数・数学科、理科 ガイドブック(解説書)

福岡県教育委員会・福岡県教育センター(2008年3月)

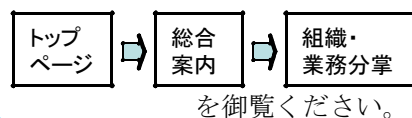
「伸びる子は一層伸ばす」という考え方の下、「発展的な学習の在り方」の実践的な研究の成果をまとめたものです。算数・数学科では「系統に基づく発展」と「関連する発展」とに分けて、また、理科では、「内容にかかわる発展」と「方法にかかわる発展」とに分けてそれぞれ研究を深めています。Web上でこのガイドブックやガイドマップ(学習内容系統図)、実践集などを閲覧することができます。発展的な学習という視点だけでなく、見方や考え方を育てるといった観点でも大変有効であると思います。

(URL:<http://www.educ.pref.fukuoka.jp/chosa/hatten>)

教育センター 組織紹介

- 総務管理グループ
総務管理担当
F K S 担当
- 企画・研究グループ
企画振興チーム
研究調査チーム
- 研修グループ
教科教育チーム
教科外教育チーム
情報教育チーム
教育相談チーム
長期研究員担当

※ 業務内容については、
教育センターWebページの



編集発行

福島県教育センター

〒960-0101

福島市瀬上町五月田16

TEL.024-553-3141 FAX.024-554-1588